■1、キーワードの作成

■2、「goodkeyword」でキーワードを実際に検索

複数の記事を確認し、そのキーワードで検索した人が何を求めているかを記載する。

■3、ログライン

執筆する記事のログラインを１行で記載する。

■4、５つの見出し例

・キツネ：稲荷神の使い。

・ヤタガラス；：熊野神の使い。神武記。

・ウシ：天神の使い。菅原道真の生まれは丑年。ウシがとどまったところで埋葬された。

・ウマ：絵馬の始まり。

・ニワトリ

・ハト：八幡神の使い。

・フクロウ：イタテ大神の使い。

・ウサギ：因幡の白兎

・狛犬

・鳳凰

■5、記事タイトル

・タイトルの左側にキーワードを入れるのが効果的。

①結論を論理的に示す

②結論を象徴的に示す

③文章全体のトピックと関連づける

※検索結果に表示される記事タイトルは約32文字。

■6、導入文の作成

①本題に直結

②方向性が絞られている

③適度な情報の空白

■7、記事の各章の見出しの作成

・大見出し：見出し２　ポイント14

・小見出し：見出し３

■8、記事の作成

記事の文字数は2000文字が目標。2000÷見出しの数＝1が見出しに必要な文字数。

・冒頭と結末の呼応：同様の表現をリフレインする。

・１回のセリフは２行まで。

・説明口調が続くときは箇条書きまたは合いの手を入れる。

・リンク先：記事上と記事下に用意。

・１ブログ１テーマ：異なるテーマを並べない。

■10、文末：基本情報のまとめ

☆施設名：公式HP

住所：

≫googleMapで開く

最寄り駅からの所要時間

TEL:

営業時間：

休館日：

≫筆者：連理梓

≫来訪日：

《IKPOLET法》

①興味を引く（Interest）

・一文に矛盾を入れる：大儀的なワードやフレーズ、極端なギャップ

・秘密を醸し出す

「〇〇がわかると、××ができます」「〇〇がわからないと、××が起きてしまいます」

「よく見る○○って、実は××」

「これまでずっと言わないようにしていたけど……」

②知識や認識にアクセスする（Knowledge）

「○○って、ご存じですか」

③目的を示す（Purpose）

「〇〇の目的はそもそも、××だ」

「〇〇を理解するために、●●をしないといけない」

④大枠を見せる（Outline）

「いまから、〇〇についてお話します」

「いま話している〇〇は、ぜんたいの××のあたりのことだ」

⑤つなげる（Link）

「〇〇と××はこんな関係があるけど、知ってた？」

⑥具体化、事例、証拠を示す（Embodiment, Example, Evidence）

「具体的に言うと……」

「たとえば……」

「〇〇という証拠がある」

⑦転移（Transfer）

「実はこの考え方は、こっちにも応用できる」